



岩五だより



江戸川区立小岩第五中学校
令和8年度 学校だより
～ 7月号 ～
令和8年 7月 14日発行

～一学期を終えるにあたって～

校長 前本 大智

七月を迎え、一学期の締めくくりの時期となりました。本格的な暑さの厳しい日が多くなる中、五中生の皆さんは授業や行事、部活動に前向きに取り組むことができました。今学期に感じたことをお伝えします。

- ① 体育館での、全校集会時や講演会の雰囲気も集中力があり進行もスムーズに感じています。
- ② 整列時間が、以前より短くなり、話を聞く姿勢をつくるまでが早くなってきています。
- ③ 各地域行事にも、ボランティアとして参加し、地域の方からの喜びの声が届くようになってきました。
- ④ 登下校中に困っている小学生を手助けして、学校や自宅まで送り届けた件があり、見ていた方や小学生の保護者の方から、お礼のお電話が届けられました。

通常、学校に苦情などが、寄せられることも多いのですが、今学期は、不思議と少なく、五中生の活躍をほめていただくことが多かった印象です。一人ひとりが五中生として、落ち着いて学校生活や地域での生活に安心して参加し取り組み始めたと感じます。

あらためまして、各学年での丁寧な生活指導、保護者・地域の皆さまの温かいご支援の賜物だと、心より感謝しています。この、良き流れを大きなうねりにしてほしいと思います。そして、そのうねりが新しく自分らしく生きる小岩五中生の伝統にまでもっていくには、五中生一人ひとりが、今いる場所から、少しでも前に、一歩前に踏み出すことが大切だと思います。



七月といえば七夕です。今年も、私が短冊に込めた願いは「小岩五中生の一人ひとりが、自分の未来に向かって一歩を踏み出すこと」でした。

サッカーワールドカップに注目が集まる場所ですが、今回はテニス選手のお話です。

先日のイギリス・ロンドンで行われたウィンブルドン選手権（世界最古のテニスの世界大会）に参加し、準々決勝まで進んだプロテニス選手の大坂なおみさんは、挑戦する人に向けて以前こう語っていました。（もちろん、彼女自身も挑戦する人です。）

「自分を信じること。それがすべての始まり。」

この言葉は、挑戦の本質をととてもシンプルかつ明瞭に示しています。

大きな目標でなくてもいい。完璧でなくてもいい。今ある自分から少しだけ成長できることを考えてみる。

「自分ならできるかもしれない」と信じて、一步を踏み出すこと。これが大切です。

また五中では、一步踏み出そうとしている人を、心より応援できる集団であってほしいとも思っています。勇気をもって動き出そうとしている人を、笑ったり茶化したりするようなことがあってはなりません。そうでないと、勇気ある一步を踏み出す人が、出てこれない集団になってしまいます。あらゆる場面でそのことを心に刻んでおいてください。

五中生一人ひとりのその一步が、未来を変える力になっていきます。みんなの力が合わさると、一人ひとりの未来が変わるとともに、地域や社会の未来も変わってくると思います。

まもなく夏休みが始まります。長い休みは、自分を振り返るチャンスです。新しいことに挑戦するのも良い。今までを反省し、動き出すのも良い。今の自分をもう少し高める努力をするのも良い。粘り強い体力をつくり始めるのも良い。

どんな小さな一步でも、確かに未来は動き始めます。

五中生の皆さん、この夏、自分の未来に向かって「前へ」「一步」着実に進んでください。安心・安全な夏休みを過ごし、そして中学生としての心が、さらに大きく成長した姿に、新学期、再会できることを楽しみにしています。

火災発生時に備えて…

7月3日（金）に本校では消防点検が行われました。非常ベルや消火器のほかに、2階・3階・4階にある避難シューターの点検も行われましたが、正常に作動できました。校長先生をはじめ何人かの先生たちが実際に体験もさせてもらいました。実際にやってみると、3階や4階からでも意外と高さを感じず、割と皆が躊躇なく滑っていました。

その後は、担当業者の方から先生方に校庭へのシューターの取り付け方も教えていただきました。無いに越したことはありませんが、災害はいきなり訪れます。その時に教職員が慌ててしまうと、生徒を安全に誘導することはできません。

この日はそれを防ぐための貴重な訓練の機会ともなりました。

